

テーマ2 家庭学習をどのように取り組んでいけばよいか（スマホの取り扱い）

課題・問題点（現状）	対策（誰がどうするか）
宿題が多い。子供自身の宿題や自主勉強に対する意識が低い。	親が毎日、宿題のほか自主勉強の習慣がつくよう、声がける。
家庭学習にメリハリがない。何かをしながら勉強している。勉強以外の興味があまりすぎる。	入りたい高校や大学進学などの目標があると頑張るはず。
プリント配布や親、先生の声がけだけでは児童は変わらない。動かない。	家庭学習する際の環境を集中できるよう整える。
共働きで、子供を見てあげられない。	自分自身で考えて目標をもって取り組む。
親自身がスマホ中毒などの場合、全く子供に制限しないなど、親の問題もある。家庭でスマホの管理がされていない。	スマホの使い方について、東松島ルールをつくってほしい。
スマホを与えることで、親が楽できていると思っている面もある。	スマホ、テレビゲーム、テレビ等、親が時間を決めるなど管理する。
スマホのほか、タブレット、PC、テレビゲームなどの管理の問題もある。	スマホ（SNS）の使い方を学校で教えてほしい。
スマホに時間を奪われ、本を読まない。字を書かなくなっている。	スマホの使い方を生活習慣として身に着ける。（例、矢本西小学校では、毎週火曜日にノーゲームデー実施中）
スマホは連絡などとても便利でなくては困るようになっているが、児童間でトラブルが多くなっている。	学校行事などでメディアの怖さ、脳への影響について有識者を呼び、学ぶ。
外で遊ぶ場所が少ない。	公園を充実してほしい。外遊びの機会を増やし、自分の興味をみつけ、自主的に勉強するように促す。

テーマ3 不登校児童を減らすにはどう取り組んでいけばよいか

課題・問題点（現状）	対策（誰がどうするか）
親の問題の面もある。過剰に先生方にクレームを入れ過ぎる人が増えているせいで、先生方が子供に対してしっかり良し悪しの指導をしづらい環境になっているのではないか。	教師にも問題がある。学校に行けば楽しい。頼りになる先生を養成する。学校、教育委員会は事案発生した際、隠さない。情報開示すべき。
問題は学校より家庭にあるのかもしれない。	学校、教育委員会は、相談窓口のPRが足りない。PR手法を考えるべき。
頼りになる先生が少ない。先生が弱すぎる。	モンスターペアレンツを極力少なくする努力が必要。
不登校、いじめの相談窓口がわからない。学校自体があやふやにしている。実態がよくわからない。	不登校は親のケアも必要。
学校の対応に問題があると感じる。隠したがるのはよくない。	子供食堂と一体的に事業を進めるとよい。
情報開示がされていない。隠ぺい体質と感じている。	外部の専門家を多くし、「心のケア」の支援を進める。
いじめにあっている児童の逃げ場がない。	学校へのカウンセラーなどの配置人数を増やし、話せる環境づくりをする。
全体として、実情が地域ごとに不明なので、問題意識が少ない。	学校と切り離して、子供と接する機会をとる。子供達が話しかけやすい大人が増えるとよい。子供が一人で考えないように。
震災による心理的なトラウマが続いている子供もいる。	他人への興味、関心を高める。理解を深めることで対応がみえてくる。
不登校に至る環境まで興味を持っていない。理解しようとしていない。	親が面倒がらず、地域の行事など、いろいろな場所、学校外の行事に連れ出し、学校外の時間、居場所をつくるようにする。
不登校という言葉は学校側から見た目線ではないか。	自分の子供だけでなく、近所の子供にもあいさつなど、声がけし見守る。準不登校の生徒への対応を丁寧。民間団体、企業など他機関連携。
	先生、親以外の人が相談に乗る方が、いい子もいるのではないか。

ワークショップの流れ



▲最後に各グループで発表



▲グループワークで各テーマについて、書き出し後にまとめ



▲ワークショップの要領を事前説明

●開会あいさつ
大橋 博之 議長
熱海 光太郎
市PTA連合会会長

●司会
齋藤 徹 議員

●市議会の教育行政についての取り組みの紹介
上田 勉
民生教育常任委員長

●ワークショップの説明
櫻井 政文
広報常任副委員長

●閉会あいさつ
小野 恵章 副議長
(広報常任委員長)

●議会議長
石森 晃寿
(総務常任副委員長)

●派遣名簿
上田 勉
(民生教育常任委員長)

●手代木 せつ子
(広報常任委員)

●齋藤 徹
(産業建設常任委員)

●小野 幸男
(民生教育常任委員長)

●小野 恵章
(広報常任委員)

●阿部 勝徳
(広報常任委員長)

●櫻井 政文
(産業建設常任副委員長)

●佐藤 富夫
(民生教育常任委員)

●長谷川 博
(民生教育常任委員)

※議席番号順に記載